

叶野千晶 写真作品展

『サンタ・マリアの御像はどこ』

遠藤周作の旅と情景を巡って

2025年5月1日(木)～5月31日(土)

9:00～17:00 (入場無料)

長崎市遠藤周作文学館 思索空間アンシャンテ

〒851-2327 長崎県長崎市東出津町77

0959-37-6011



作家トークイベント

5月3日(土) 13:00～ (要予約) ご予約は文学館まで

「写真制作の原点と遠藤文学との出会いについて」

聞き手 林田沙緒里 (遠藤周作文学館 学芸員)

かくれキリシタンの取材のために、長崎で暮らしていた時に、遠藤周作の「切支丹の里」を読んだ。一枚の踏絵との出会いから、遠藤周作の創作におけるフィールドワークは、思考と視覚の旅であったのではないだろうかとは私は考えていた。

人は聖者や殉教者になれるとは限らぬ 彼はやっぱり心の痛みを感じ自分の弱さを憎んだろう

切支丹たちが拷問をかけられたのはここにちがいない

人は聖者や殉教者になれるとは限らぬ 彼はやっぱり心の痛みを感じ自分の弱さを憎んだろう

遠藤周作

叶野千晶 Kano Chiaki

1971年千葉県生まれ、東京在住

京都造形芸術大学 通信教育部 芸術学部 美術科写真コース卒業。

ギャラリー、美術館など企画展や写真プロジェクトなど多数参加、個展やグループ展で作品を発表する。2023年には、海外のコンテンポラリーギャラリーと契約、アートフェアで作品販売。ほか現在、作品のリサーチや撮影活動を継続しながら、自身で企画し作品コンセプトをもとに活動の幅を広げている。

<https://www.chiakikano.art>